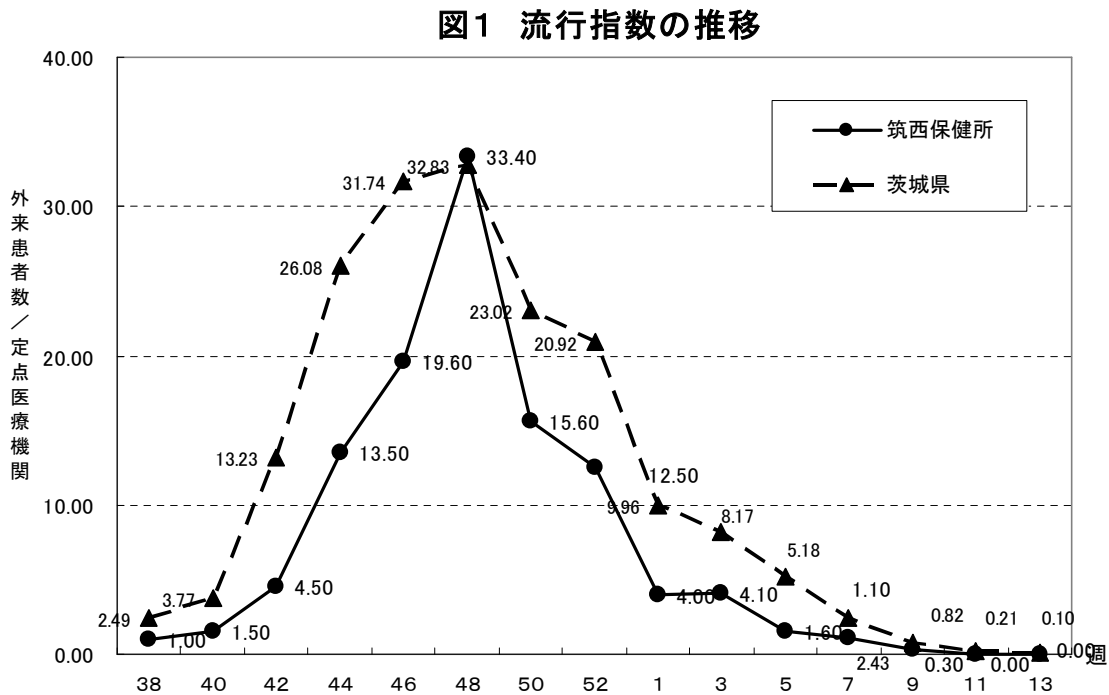
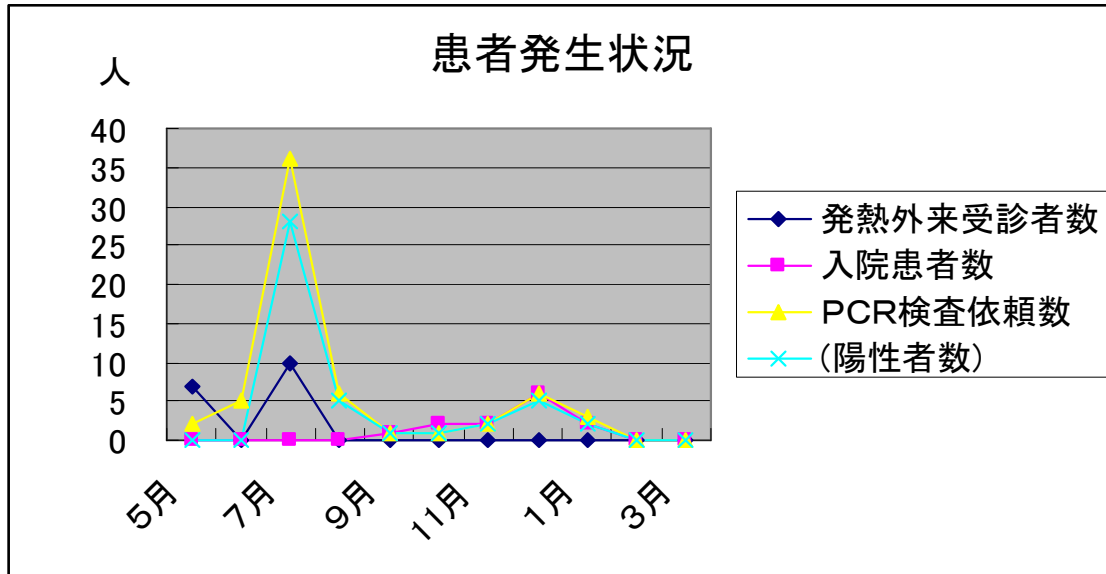


1. 患者発生・流行状況

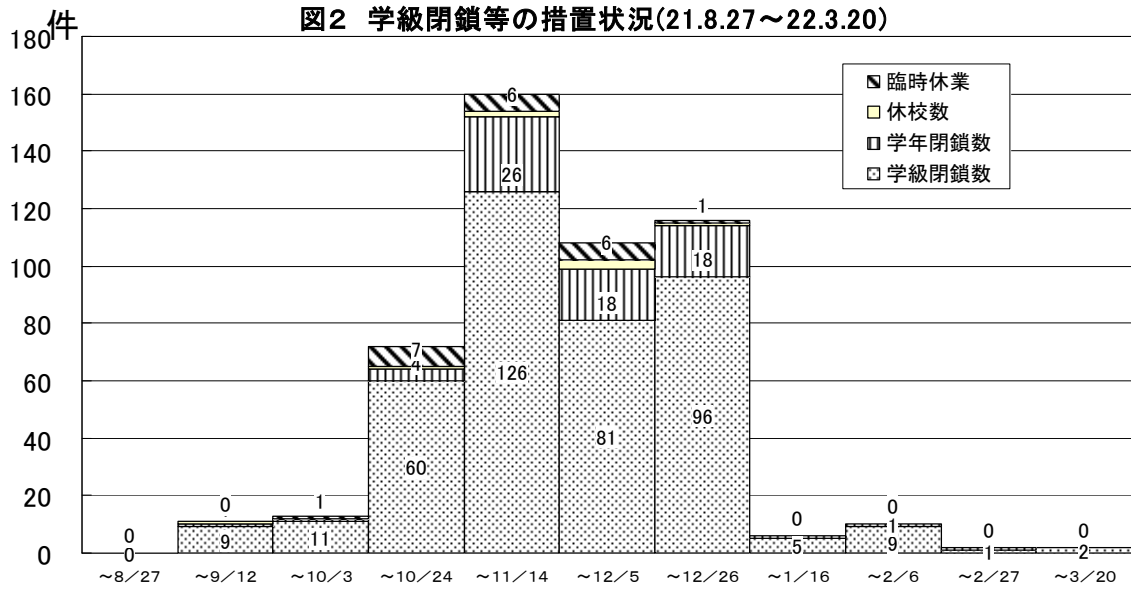


# 公立小中学校におけるインフルエンザ罹患状況推計

(平成 21 年 12 月まで)

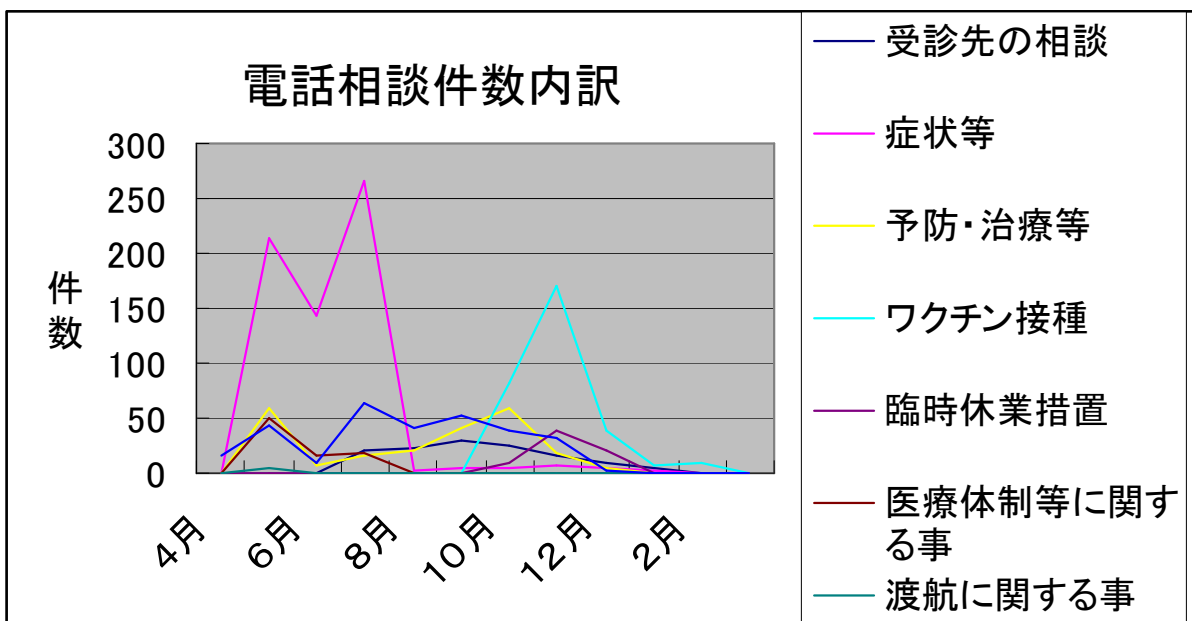
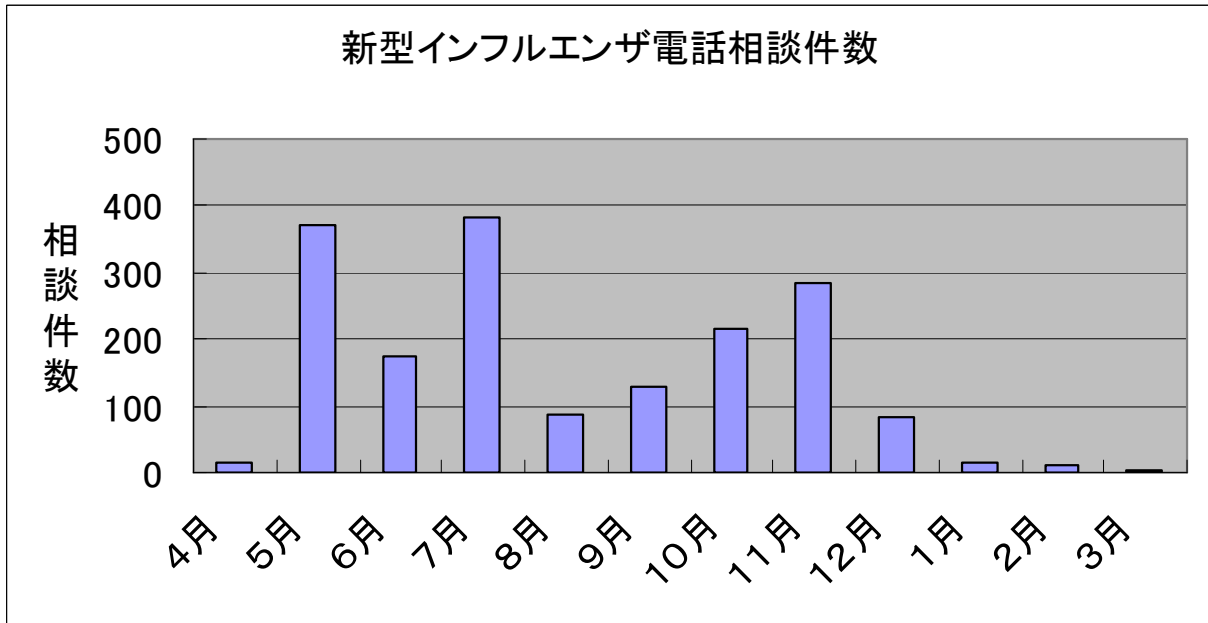
A市 小学生 41.2% 中学生 35.8%

B市 小学生 39.4% 中学生 31.1%



## 2. 保健所の対応

### 相談センター



## 健康監視

5月 40名

## 積極的疫学調査

7月 273名

8月 38名

(参考)

2009年7月18日 読売新聞 地方版

県は17日、新たに4～45歳の男女17人の新型インフルエンザ感染を確認したと発表した。県内の感染確認者は計129人。

筑西保健所の女性職員（45）も含まれており、同保健所は玄関に文書を掲示し、来所者にマスクの着用と手洗いの励行を呼び掛けている。女性は勤務外で感染したと見られるが、全職員のうち約3分の1に当たる職員が来所者と対応せず、別室で勤務する体制を取った。

## 関係会議・研修

<p>H21. 5. 11 午後3時から 第1回新型インフルエンザ対策会議 (保健所主催)</p>	<p>「新型インフルエンザに対する今後の対応について」 ①新型インフルエンザに関する国対応 ②新型インフルエンザに対する県の対応他</p>
<p>H21. 5. 11 午後7時から 医師会 支部役員会</p>	<p>「新型インフルエンザ対策の現状について」 説明：</p>
<p>H21. 5. 27 午後1時30分 から 平成21年度管内保健衛生主管部課 長等会議 (保健所主催)</p>	<p>「新型インフルエンザに対する今後の対応について」 ①新型インフルエンザの現状と課題について②管内の医 療体制について ③市町村における対応について</p>
<p>H21. 6. 5 午後7時から 市医師会新型インフルエンザ研修会 (市医師会・保健所共催)</p>	<p>「新型インフルエンザ対策と医療の役割」 講師：保健所長</p>
<p>H21. 7. 23 午後7時から 透析施設における新型インフルエン ザへの対応に係る会議(保健所主催)</p>	<p>①新型インフルエンザの現状と医療体制②各医療機関に おける透析の実施状況について③透析患者の発熱外来受 診や新型インフルエンザに罹患した場合の対応</p>
<p>H21. 7. 24 午後2時30分 から 第2回新型インフルエンザ対策会議 (保健所主催)</p>	<p>新型インフルエンザに対する今後の対応について ①診療体制等について ②サーベイランス体制について</p>
<p>H21. 8. 21 午後7時から 新型インフルエンザ対策に関する研 修会 (医師会支部・市, 保健所共催)</p>	<p>「新型インフルエンザ対策と一次救急診療所及び各医療 機関における対応について」 講師：保健所長、職員</p>
<p>H21. 9. 6 午後2時から 筑西市民フォーラム2009 (医師 会主催, 市・保健所後援)</p>	<p>「新型インフルエンザと生活習慣病」 講師：自治医 科大学 森澤雄司先生 討論会 「新型インフルエン ザにどう立ち向かうか」</p>
<p>H21. 9. 14 午後7時から 新型インフルエンザに関する医療体 制の確保対策連絡会議(保健所主催)</p>	<p>「新型インフルエンザ患者の増加に向けた医療体制の確 保について」 ①新型インフルエンザの流行シナリ オ ②国の方針と筑西保健所管内の状況 ③今 後の対応について意見交換</p>
<p>H21. 10. 19 午後2時から 新型インフルエンザ予防接種等につ いて (保健所主催)</p>	<p>「新型インフルエンザ予防接種等について」 ①新型インフルエンザ予防接種にかかる現在の状況 ② 新型インフルエンザ予防接種についての情報提供及び意</p>

	見交換
H21.11.16 午後7時30分から 医師会 支部役員会	「新型インフルエンザワクチンの幼児等への優先的な接種について」 保健所長 説明：
H21.11.20 午後2時から 新型インフルエンザ連絡会議（保健所主催）	「新型インフルエンザワクチンの幼児等への優先接種の対応について」 ①優先接種の対応について説明 ②意見交換
H21.11.20 午後6時30分から 新型インフルエンザワクチンの幼児等への優先的な接種にかかる打合せ（保健所主催）	「新型インフルエンザワクチンの幼児等への優先接種の対応について」 ①優先接種の対応について ②意見交換
H21.12.1 午後7時から 新型インフルエンザワクチンの小学生・中学生への接種計画の打合せ	「新型インフルエンザワクチンの小学生及び中学生に係る接種計画打合せ」 ①小学生及び中学生に係るワクチン接種計画（集団接種）について 意見交換

## 予防接種

期間		10月	11月	12月	1月	10～1月 累計
接種者数						
医療従事者	65歳未満の者	1,203	816	231	234	2,484
	65歳以上の者	40	19	9	2	70
	計	1,243	835	240	236	2,554
基礎疾患を有する者	1歳～小学校3年生	0	624	667	392	1,683
	小学校4年生～6年生	0	50	78	64	192
	中学生及び高校生の 年齢該当者	0	43	50	9	102
	高校卒業以上相当～ 65歳未満の者	1	721	1,007	550	2,279
	65歳以上の者	11	1,655	2,591	1,630	5,887
	計	12	3,093	4,393	2,645	10,143
妊婦		10	630	196	99	935
1歳～小学校3年生		0	9	6,912	2,764	9,685
1歳未満の小児の保護者及び優先接種対象者のうち身体上の理由により 予防接種が受けられない者の保護者等		0	1	252	168	421
小学校4年生～6年生		0	3	1,463	1,372	2,838
中学生		0	0	298	1,069	1,367
高校生の年齢該当者		0	0	204	258	462
65歳以上の者		0	0	300	2,235	2,535
1歳未満の者					8	8
上記以外の者					1,087	1,087
合計		1,265	4,571	14,258	11,941	32,035

### 3. 保健所振返り会議

日時 平成22年6月23日19時

出席者 2 医師会 4 管内病院 管外病院 市町村 消防 警察  
本庁 管内県出先機関 保健所

#### 保健所担当者からの意見

医療体制については、毒性や感染力により異なるが、現在の発熱外来数では対処しきれない。毒性や感染力に応じて、発熱外来医療機関を増やす事の出来る柔軟な体制作りが必要と思われる。

強毒性となった場合には、入院患者が増大し現在の入院協力医療機関数では絶対的に不足する。強毒型となった場合を想定した、入院医療機関の確保と医療機関側の体制作りが必要であり、発熱外来や人工呼吸器の補助を充実させる必要が有る。

患者が急速に増加している状況では全数把握は難しいため、患者の発生状況に応じたサーベイランスに速やかに変え、調査項目を簡潔にする必要が有ると思われる。

優先接種対象者を設定し、国・県で配布計画に基づき配布したが、ワクチンの製造が間に合わず、11月のワクチンの供給が不足し、小児に流行し、学級閉鎖が増加した。適時に優先対象者の変更が必要であった。

ワクチン接種は、原則かかりつけ医で実施であったが、大学病院では接種できず、本人自身も混乱したが、地元の医療機関も混乱し負担であった。早い時期からワクチンを医療機関同士で融通できるようにしてほしかった。

厚労省からの発表よりもTV・新聞等のマスコミからの報道が早く、そのために問い合わせの対応で困った。

今回のウイルスの病原性が明らかになってからの対策の方針変更が遅く現場では混乱した。

#### 関係者からの主なご意見

##### 医療体制について

発熱外来は、患者を分けるといっても入り口が一緒なので心配がある。

24時間以上たたないと検査結果がでないので、同じ患者が2日続けて来たことがあった。

病院でも感染症専門の医師がいるわけではなく、病棟に入っても病状の進行が早く、すぐ消防で転送してもらった。地域で感染症専門病院をつくっても今の体制では無理。

入院患者は大病院で見てワクチンも打ってというのは、12月で流行が収まったからよいが、今の体制では絶対無理だったと思う。医師を他から手伝いにきてもらわなくては無理である。強毒性だったらもっと患者が来るので、いかに早く収めるか地域で考えないといけない。

##### 予防接種について

なるべく不公平にならないよう、細かく割り振ったが、優先接種の順位を超えてやる事ができなかったため、10mlバイアルも使いづらかった。

そもそもワクチンが本当に切り札なら、無償でやるべきだ。

今回のやり方はきちんとしたワクチンをやる体制でない。

集団接種について生徒数が多いところは協力して接種した。問診した先生が打っていたので、時間がかかり、休診日にも行った。診療所を休ませて接種した先生もいた。

1月頃子どもに流行したが、もっと早く接種できれば流行しなかったと思う。

余剰ワクチンについて、後になって返品できませんと言われて困った所も多かった。

広報・情報提供について

マスコミが先走り曖昧な情報が流れると、我々も患者に答える責任があるので、最初は混乱した。

不確実な情報が流され、また一日で情報が変わってしまうので、確実な情報が欲しかった。

情報のソースを一本化することが重要である。

市民への情報提供が大事ではないか。「発熱外来のかかり方」「水際作戦は終わった。」等、テレビのテロップ等で絶えず流せば、もう少し市民に協力してもらえたのではないか。